

第1章「はじまりの駅・大阪」創生

21世紀の大阪が目指す「水都・大阪」の顔として、大阪駅とその周辺地域は、大阪を訪れる内外の人々に、アメニティあふれる、今から訪れる都市への期待をふくらませてもらう“はじまり”の空間づくりを行うことが望まれる。

同時に、大阪の未来を象徴する、新しいトライアル空間としての機能を創出する場として、水都として我が国を先導した大阪の文化を現代に再現するとともに、様々な価値観や文化的背景をもつ人々の出会いから生み出される新しい「知」と「粋」を現代的に育むこととする。さらに、大阪がもつ可能性をあまねく発信するとともに、関西が培ってきた「智慧の都」の拠点としての整備を進めなければならない。

(1)「水都・大阪」の顔づくりと、南北をつなぐ人の動線づくり

大阪駅は、大阪都心最大の交通結節点であり、通勤・通学者や周辺地域からの人々が行き交う拠点として、また、遠来からの人を迎え入れる大阪の玄関である。

人々を迎え入れる場として、「水都・大阪」にふさわしい水都を感じさせる空間整備を行う。また、駅を人々のふれあいの場として、大阪駅界隈の一体感と人々の回遊性を確保する。

具体策 南側広場を「花」と「緑」と「噴水」のオープンスペースに

大阪駅の南側広場は、大阪駅を降り立った人が大阪都心へと出発する重要なはじまりの場である。「水都・大阪」の顔として水都を感じることものできる空間づくりと新名所としての駅づくりが求められる。

- ・ 南側広場の交通広場としての一部機能を北ヤード地区側に移設し、地下・地上・デッキを利用した立体空間に、「水都・大阪」にふさわしい光と風、緑と花と水をテーマとした自然との共生、人と都市のアメニティを追求した広場へと再整備を行う。
- ・ 人々の眼前に「花」「緑」「噴水」によるアメニティ豊かな空間が広がることにより、これから降り立つまちへの期待が膨らむと共に、歩きたくなるまちへと変貌する。

具体策 大阪駅を周辺地域とのネットワーク・コアに

大阪駅の周辺地域は、"もてなしのまち"北新地のある南側地域、新しいビジネス街である西側地域、若者のまちの東側地域、新しいまちが生まれる北側地域といった個性豊かな地域が各々に展開している。

大阪駅を中心に人工デッキや建物内部、歩行者道路をネットワークさせ、歩行者のスムーズな移動を可能にする。同時に、楽しく歩けるまちづくりを進めるために、緑と噴水・滝・せせらぎなど水のもつ多様な側面を取り入れたアメニティ豊かな歩行者道路の整備を行う。

- ・大阪駅を中心とした東西南北の周辺地区をつなぐ人工デッキ「水の空中回廊」を整備し、ターミナルとしての利便性と一体感を高め、「水都・大阪」の新名所とする。
- ・北ヤード地区から大阪駅の人工デッキを経て北新地に至る道路を、北新地と北ヤード地区を繋いだ歴史から未来への水都動線「水都モデル街路」とし、歩行者を重視した緑と噴水・滝のある通りとして整備する。
- ・大阪駅西口を再整備し、西梅田開発地区と北ヤード地区との新しい結節空間をつくるとともに、新梅田シティ、福島駅周辺との新しい回遊性を生み出す。

(2) ターミナル・サービス・ステーションづくり

内外から大阪を訪れる人々を迎え入れ、人々がふれあい、人々を送り出す場として、多くの出会いと交流が生まれる「駅」にふさわしいサービス機能を充実し、「水都・大阪」の顔としての利便性と魅力を高める。

具体策 ターミナル機能の充実

人々を迎え入れ都心へと導く「駅」として、インフォメーション機能を充実させるとともに、人々に快適さと安心感を提供する空間を整備する。

- ・ 大阪および関西の各団体・施設と連携してビジネス・観光・文化等を紹介し、滞在サービスを提供するインフォメーション・センターと、各地のイベントや歳時記と連動したミニ・イベント空間を整備する。
- ・ ターミナル駅として乗り換えの良さをさらに高めるとともに、スムーズな乗り換え動線の構築や、美しく機能的でわかりやすいサインを整備する。

具体策 立ち寄り型交流機能の整備

交通結節点としての場を利用した新しい出会いと交流が生まれる施設や機能の充実により、顔としての魅力を高める。

- ・ 魅力あるレストランやカフェ、待ち時間を利用したビジネス・サービス・オフィス、交通利便性を利用したレンタル会議室、イベントホール・広場などの整備により、駅の交流機能・賑わい機能を高める。
- ・ ショッピングモール、ドラッグストア、ブック・ストア、行政窓口等の整備により日常の利便性を高める。

(3)「知」の発展拠点づくり

大阪駅北側に位置した梅田貨物駅地区・北ヤード地区は、「水都・大阪」の顔として、21世紀の新しい都市に生まれ変わるべき地域である。大阪の未来に向けた「交流・融合知」の創出を目指す水都・智慧の都として、世界に向けた「実業の場」づくりと、内外の知的人材が集うにふさわしいホスピタリティあふれるまちを目指す。

具体策 リサーチ・コンプレックス・ネットワーク・コアの創出

関西学術研究都市や彩都、播磨科学公園都市、神戸医療産業都市等の、関西が世界に誇る「知」の集積の形成・充実が進められている。これらを有機的に連携させ、さらに発展させる近畿リサーチ・コンプレックスの情報発信・発展のコア機能を創出する。

- ・ 「知」の結節空間として、大学のサテライト・キャンパスやリエゾン・オフィス、関西のリサーチパークや公的研究機関のリエゾン・オフィスが集積するゾーンを整備する。
- ・ 新しい「交流・融合知」が生まれるプロジェクト創出機能とコラボレーション機能をもったリサーチ・コンプレックス推進機構を整備する。

具体策 クリエイティブ人材とビジネス・インテグレータのコラボレーション拠点づくり

大学や研究機関から生まれるアカデミックな「知」を実業へと発展させることが大阪活性化のための重要なポイントである。このような志ある人々や企業を結びつけ、集積させるための戦略的な仕掛けづくりが必要である。

- ・ 大学や研究所から生まれる最先端分野の知を交流・融合させビジネスを生み出す人々と投資家とのマッチング・サービスの充実や、新しい企業の進出を促す税や補助等のインセンティブづくりを行う。
- ・ 外資系企業等も視野に入れた国際的生活拠点として、都市生活を楽しむための生活全般を支えるライフサポートサービスの充実や、ライフスタイルにマッチした居住空間の整備を行うとともに、新しい居住者への税や補助等のインセンティブづくりを行う。
- ・ 行政や経済界が一体となったシティ・プロモーションとビジネス支援サービスを、さらに充実させる。